

風疹に関する注意喚起

首都圏を中心に風疹の患者数が増加していましたが、本日、大分市の男性の感染が確認されました。大分県では2年ぶりの感染者の確認となります。

風疹は、咳やくしゃみを通じて感染します。罹患して2-3週間後に熱や発疹、リンパ節の腫脹などの症状で顕在化します。妊娠初期の女性が感染した場合、赤ちゃんにも感染して、先天性の心疾患、難聴、また白内障などを起こす危険性が報告されています。

今年の患者は男性が7割を占め、予防接種歴が低い30-50歳代の男性に多いことが指摘されています。自身の風疹の罹患歴や風疹ワクチンの接種歴を確認し、感染予防には十分注意してください。

風疹に罹患したことがなく、かつ風疹ワクチンを2回接種していない（MRワクチンは風疹ワクチンを含みますので、MRワクチンの接種歴も1回とカウントされます）方の中で、風疹が流行している地域から帰った後、2-3週間後に熱や発疹等の症状がある場合は、医療機関に電話で相談をしてから受診してください。

風疹の疑いとなった場合は、大学への登校や出勤は控え、保健管理センターに電話で指示を仰いでください。